

福岡高校野球部『がんばれ福岡 2020 福岡地区高校野球大会』で優勝！！

令和2年7月4日～8月3日にかけて開催された『がんばれ福岡 2020 福岡地区高校野球大会』において、本校野球部が見事に優勝を果たした。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏の全国大会(甲子園大会)が中止となり、福岡県高校野球連盟は、福岡県教育委員会との共催で、県内を4つの地区に分けた代替大会を開催した。そのうち、福岡地区大会では、予選リーグ2試合を実施してパート順位を決めた上でトーナメント戦が行われた。本校の戦績の詳細は右に示す通りである。予選リーグでは強豪私立高校を相手に1勝1敗として得失点差で1位となり、勢いを付けた。準々決勝以降の3試合は、全て最終回に逆転して勝利を収める劇的な試合展開となり、福岡高校野球部の粘り強さ、集中力の高さを存分に示すことができた。

決勝戦は8月3日にPayPayドームで行われた。相手の福大大濠は優勝候補であると同時に、昨年の夏の大会3回戦で9回2死までリードしていながら逆転サヨナラ負けを喫した相手であった。この試合では3年生のエース緒方が9回まで福大大濠打線を翻弄して無得点におさえ、0-0のまま延長戦(タイブレーク戦)に突入した。10回表に1点先取されるもその裏に2死から9番山田の適時打で追い付く。11回表には2点勝ち越されるが、その裏、3番大中・4番森谷の連続適時打で追い付き、最後は代打の大堂が犠飛を放ち、劇的なサヨナラ勝ちを収めた。



決勝戦で力投する緒方投手

今年は4月以降多くの部活動の大会が中止となり、やりきれない「引退」を迎えた3年生も多い中で、野球部の生徒全員が一丸となって「絶対に諦めない姿勢」を見せて成果を挙げ、学校全体を盛り上げてくれた(決勝戦はケーブルテレビで生放送されており、生徒は教室の電子黒板で観戦・応援して大いに盛り上がった)。野球部の小森監督は、今大会の快挙の要因の1つとして、休校期間中の過ごし方を挙げる。各自で体作りや野球の思考力向上を計画的に持続するとともに、チームメイトとオンラインで連絡を取り合ってモチベーションの維持、目標の共有を行えたことが大きいという。その成果は練習が再開された際の「動きの良さ」に表れていた。7月上旬には福岡地区公立高校野球大会において優勝を果たしている。野球部のモットーは「選手が主体的にチームを作り上げ、全員で『考える野球』を實踐して粘り強く勝利を目指す」。このモットーをまさに「地で行った」と言える今大会の成果は、彼らの今後の人生における大きな糧となったと同時に、文武両道を標榜する福岡高校の伝統に新たな歴史を刻みつけるものであったと言えるのではないだろうか。



サヨナラ勝ちで優勝を決め、ベンチを飛び出して喜ぶ選手達



【福岡高校の戦績】

《予選リーグ：Fパート》

福岡2 - 3 福岡第一

福岡7 - 4 筑陽学園

★得失点差によりFパート1位

《トーナメント戦》

2回戦 福岡8 - 0 武蔵台(7回コールド)

3回戦 福岡6 - 1 香住丘

準々決勝戦 福岡10 - 9 福岡工業

準決勝戦 福岡9 - 8 春日

決勝戦 福岡4 - 3 福大大濠(延長11回)